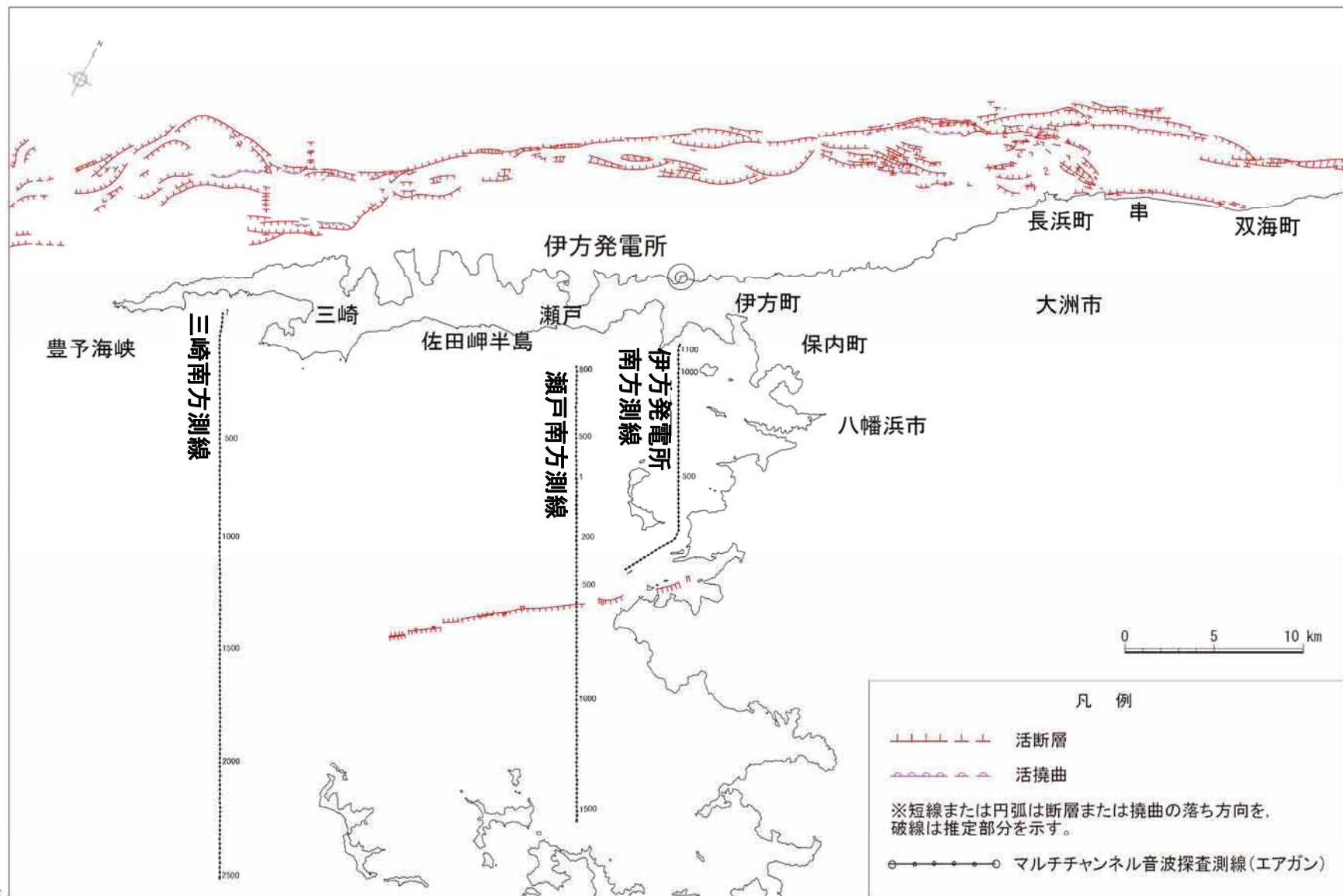

III 3. 海底下深部の調査結果

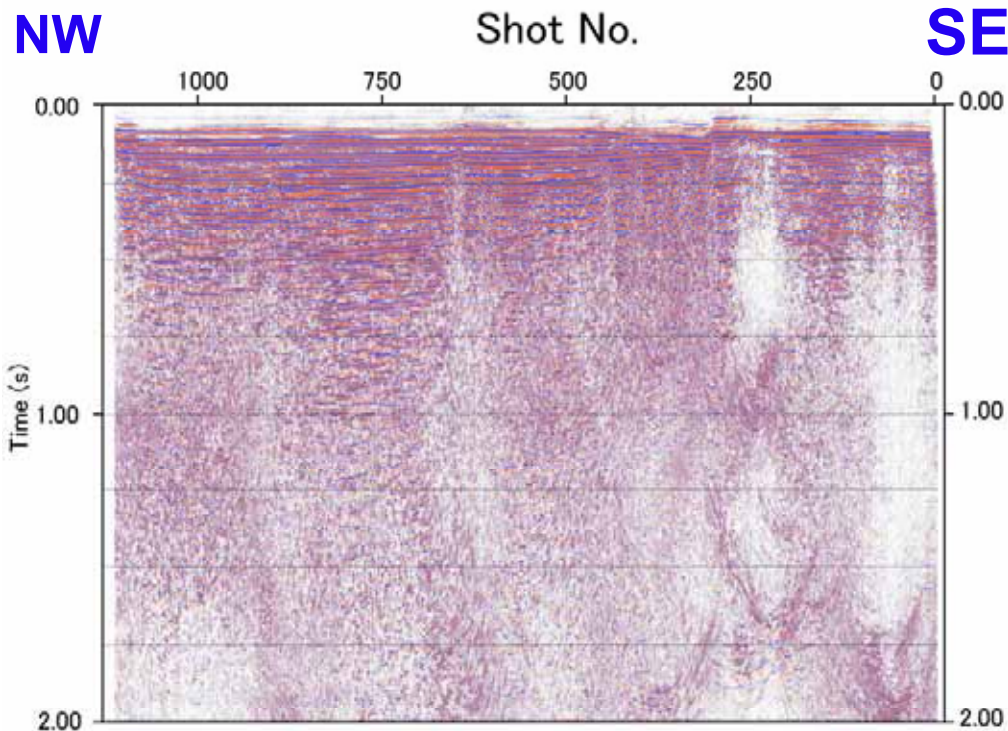
III 3. 1 宇和海の海上音波探査測線図(エアガン)



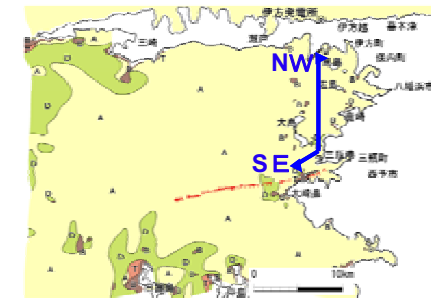
III 3. 2 エアガンによる探査の観測条件

項 目		設 定 値
記録部	サンプル間隔	1.0 msec
	収録時間	4.0 sec
送信部	発振間隔	12.5 m
	発振器の深度	3.0 m
	空気室容量	80 in ³
	空気室圧力	120 kg/cm ²
受信部	チャンネル数	48 ch(一部24ch)
	チャンネル間隔	12.5 m
	ニア・オフセット距離	90 m
	ファー・オフセット距離	690 m(一部390m)
	受波器深度	5～10 m
	受波器の長さ	600 m(一部300m)
調査船の平均速度		2.5～3.0ノット

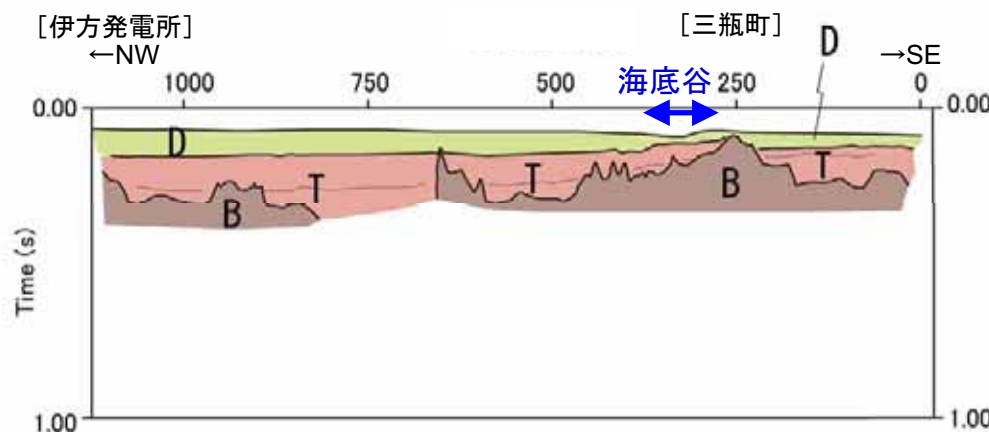
III 3. 3 エアガンによる探査断面図(伊方発電所南方断面)



添付資料 図-82

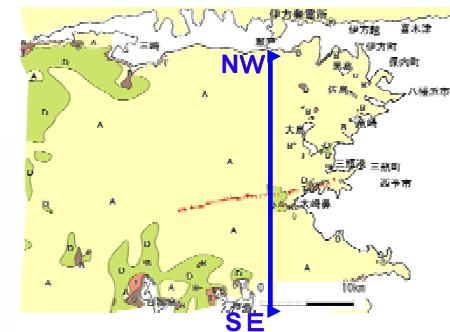
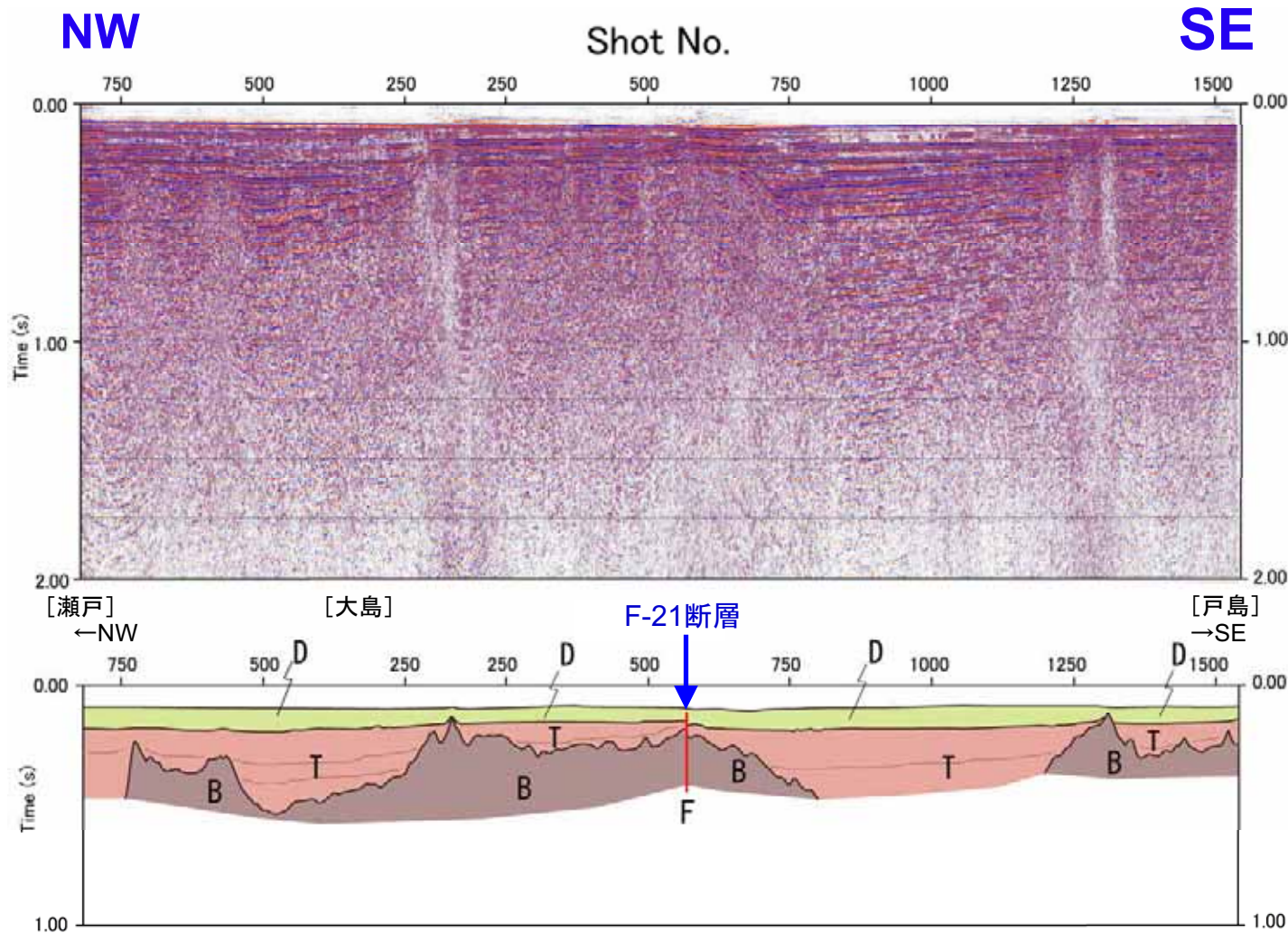


伊方発電所南方に断層は認められない。
宇和海では基盤岩の深度が全般に浅い。



III 3. 4 エアガンによる探査断面図(瀬戸南方断面)

添付資料 図-83



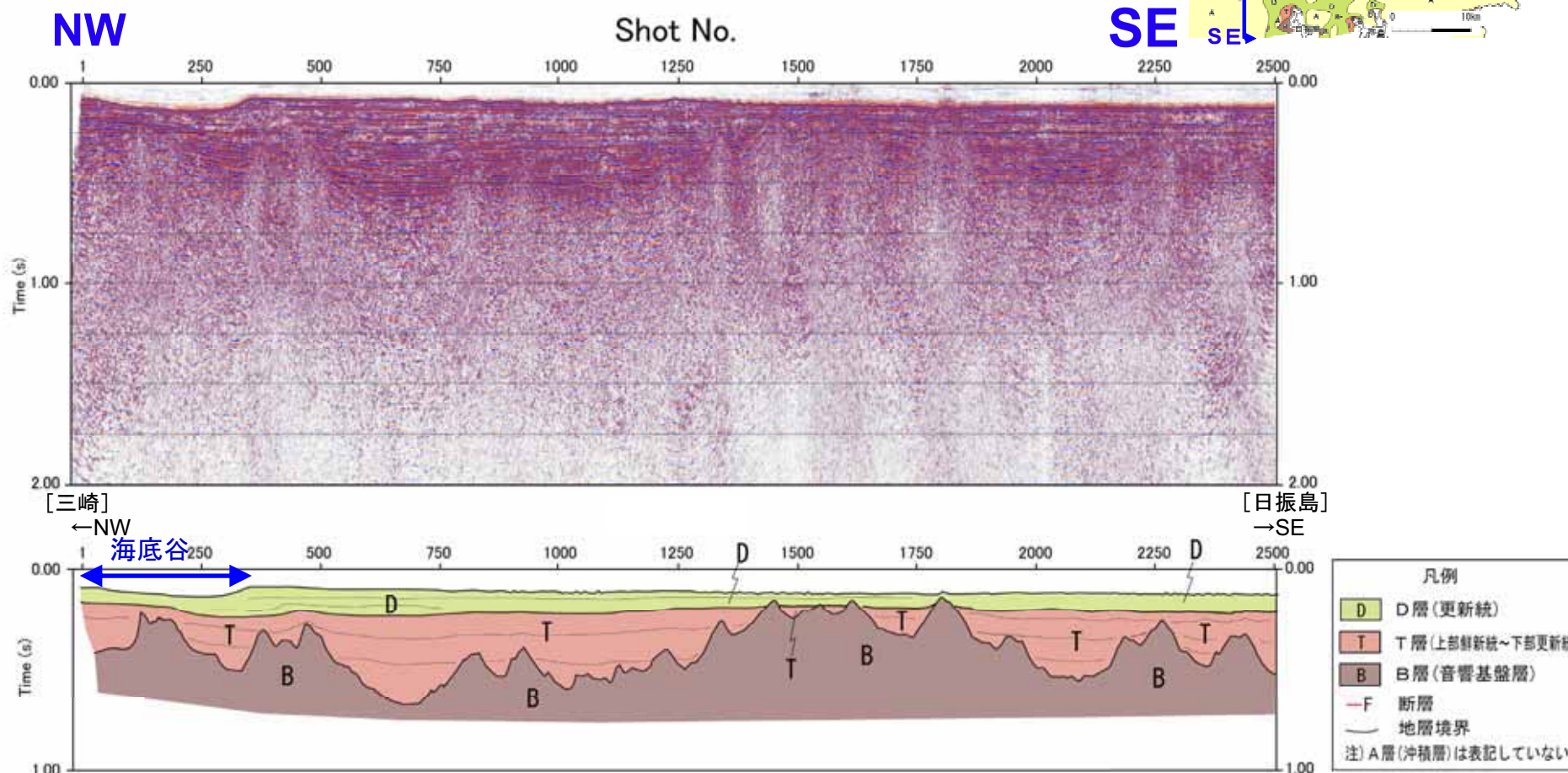
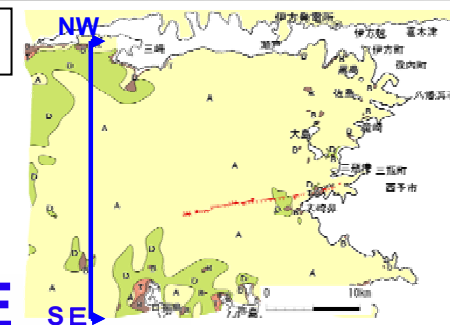
瀬戸南方にはF-21断層が認められる。F-21断層について、基盤岩内部の情報は得られなかったが、堆積層に南落ちの変位を与える高角度の断層として認められる。



III 3. 5 エアガンによる探査断面図(三崎南方断面)

添付資料 図-84

三崎南方に断層は認められない。
基盤岩は凹凸が著しいが、これを覆う堆積層によって海底面は概ね平坦となっている。



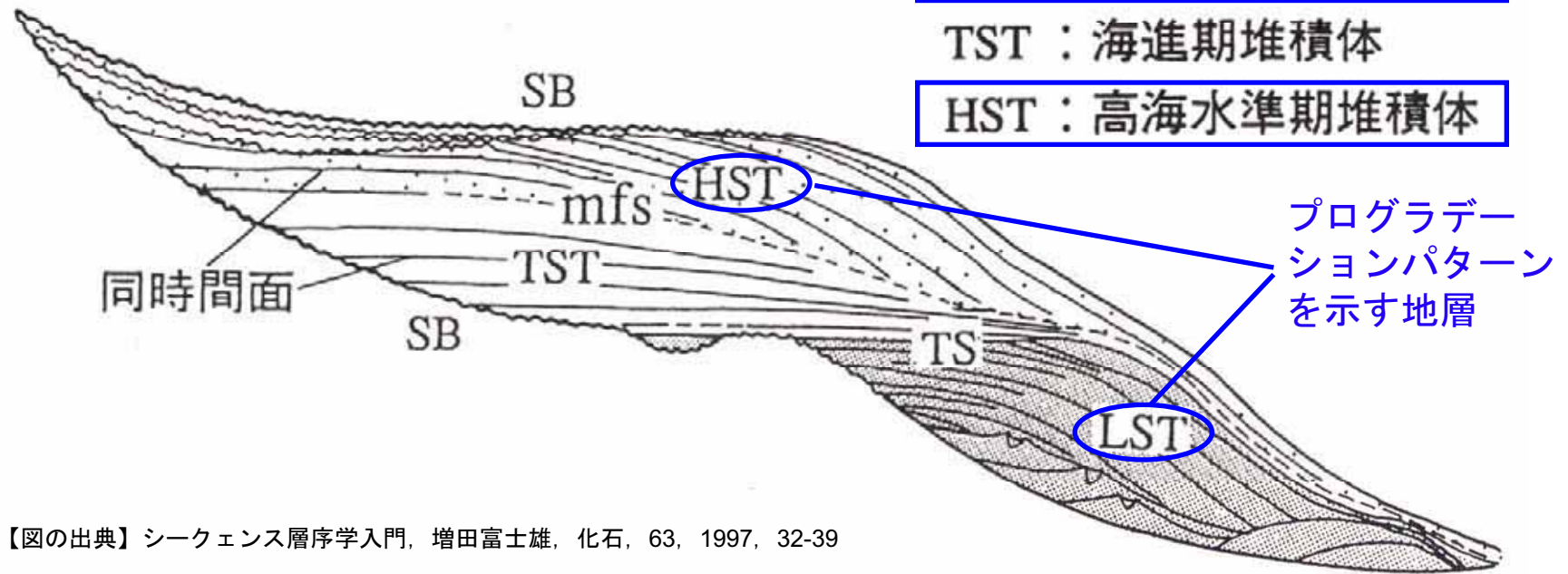
III 4. プログラデーションパターンの性状

III 4. 1 プログラデーションパターンを示す地層

プログラデーションパターンは、一般に、海岸線の位置が海側へ移動する相対的な海退期（低海水準期および高海水準期）に沖合いへ前進しながら堆積して形成された地層の存在を示していると考えられる。

堆積シーケンス

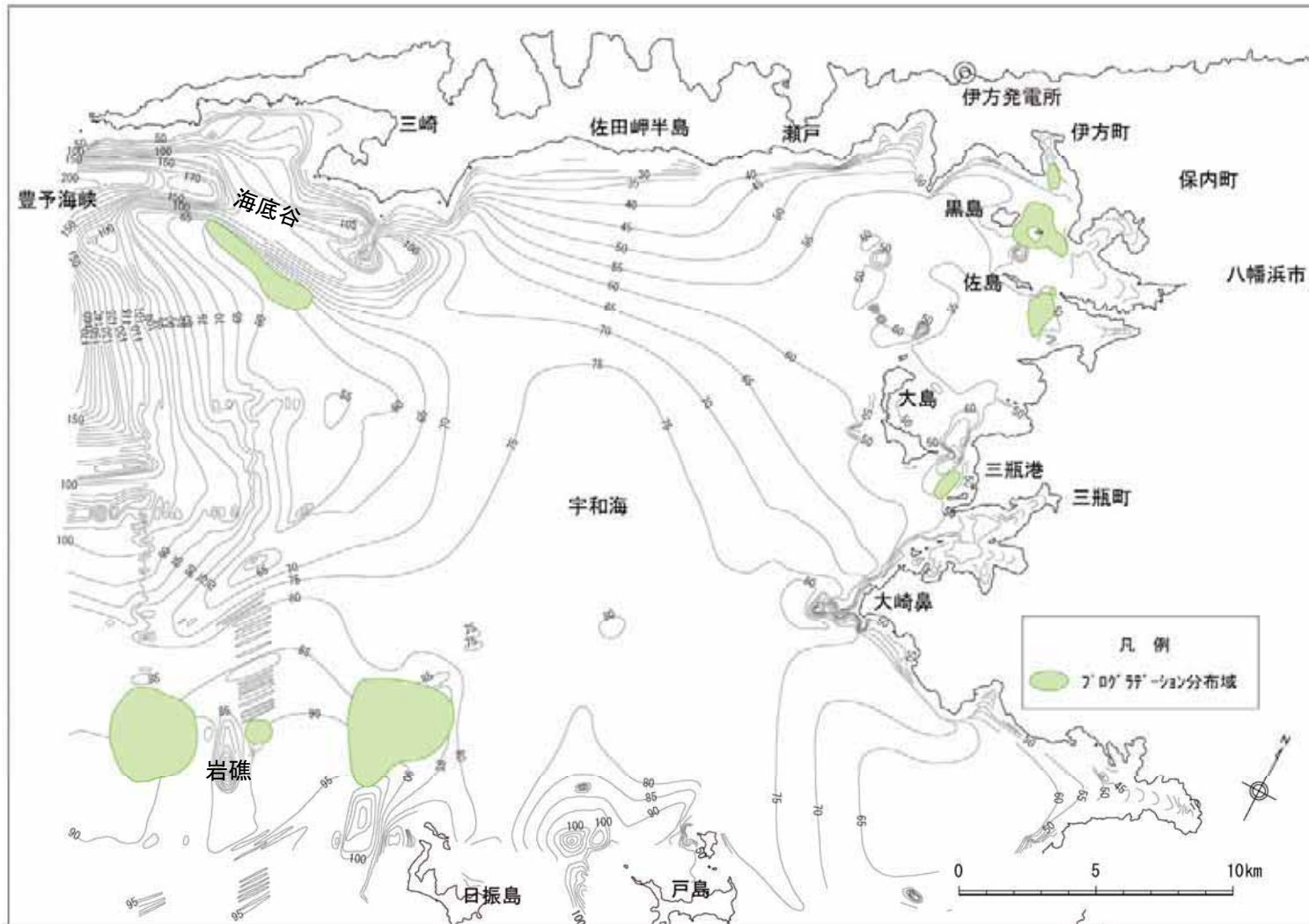
[層序区分]



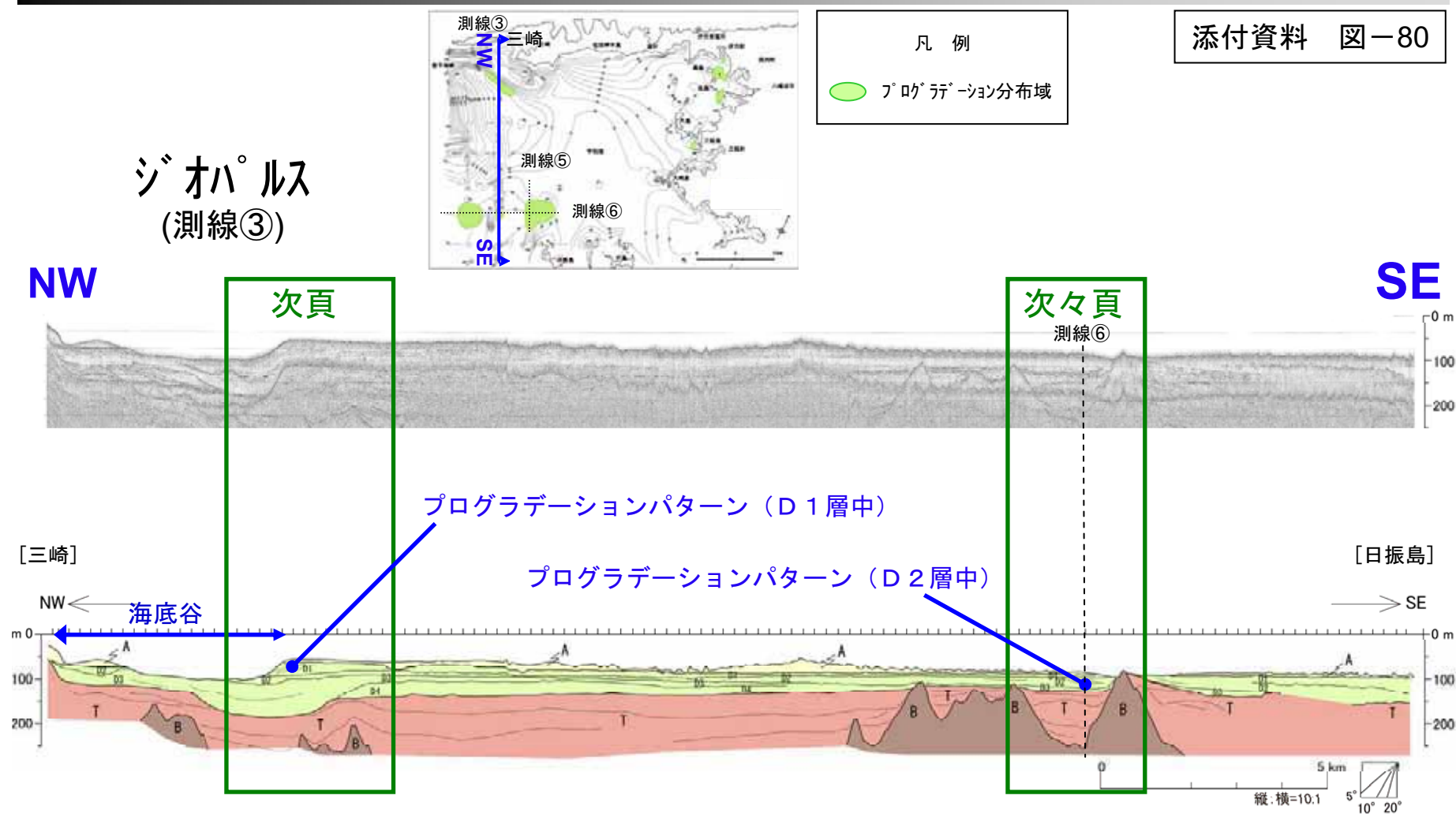
【図の出典】シーケンス層序学入門，増田富士雄，化石，63，1997，32-39

III 4. 2 プログラデーションパターンの分布位置図

宇和海におけるプログラデーションパターンは、海底谷、島および岩礁周辺のD層中に認められる。A層中にプログラデーションパターンは認められない。



III 4. 3 沖合いの海底地質断面図 (三崎南方断面)



三崎南方では、同一断面のD 1 層とD 2 層の双方にプログラデーションパターンが見られる。

III 4. 4 沖合いの海底地質断面図 (三崎南方断面拡大①)

